



東地中海地域ニュース

トルコ： 総選挙後の関連ニュース

(7月24 - 25日付現地報道)

1. 内閣改造

エルドアン首相は7月22日の総選挙の結果を受けて、次期内閣の閣僚選考に着手した。公正発展党（AKP）の看板候補として議会入りを果たしたエルトゥールル・ギュナイ元 CHP（共和人民党）事務局長、ザフェル・チャーラヤン・アンカラ産業会議所会頭、メフメット・シムシェッキル元メリルリンチ社エコノミスト、エディベ・ソゼン AKP 副党首、ファールク・チェリッキ AKP 院内副代表など、刷新的な名前が閣僚候補として挙げられている。

2. 女性議員の増加

現在の国会には24名の女性議員がいるが、新国会ではAKPから30名、CHPから10名、民族主義者行動党（MHP）から2名、無所属から8名の合計50名の女性議員が誕生する見込み。

3. 選挙後の初閣議開催

7月24日、総選挙後初の閣議が開催され、総選挙結果が協議された。閣議後の記者会見でシャーヒン副首相は、「トルコ国民は、22日の総選挙で政治は政治家に任せられるべしとの審判を下した」旨を述べ、大統領選挙における国軍や憲法裁判所の介入を暗に批判した。

4. 公正発展党（AKP）中央決定・執行委員会の開催

7月24日、AKP・執行委員会が開催された。エルドアン首相は、AKPとして約1年半後に予定される地方選挙に向けて今から準備し、これまで支持率の低い自治体でも勝利し、全トルコを包容する政党になることを目指す旨述べた。一部の役員は、ギュル外相が再度大統領に立候補することの支持を表明した。

5. ギュル外相の会見

7月25日、ギュル外相は記者会見を行い、注目されていた大統領立候補に関し見解を述べた。同外相は、立候補するか否かの明言を避け、大統領選挙は今後の政治プロセスの中で最も正しい結末に至るであろうとの旨を述べたが、他方、選挙で示された国民の意思（AKPへの高い信任）を各党も正しく理解するものと信じると述べた。これは、引き続き立候補の意思を有しているとも解釈されている。